

熊本県農業コンクール大会「食と農」部門 優良賞 山口 やよいさん(菅尾)

第53回を迎えた熊本県農業コンクール大会（県・JAなど農業団体・熊本日日新聞社主催）で、山口やよいさん（菅尾）が「食と農」部門の優良賞を受賞されました。

県酪農女性部協議会会長を務めるやよいさん。牛乳豆腐普及運動や牛乳を使った料理コンクールを開催するなど、牛乳の普及と消費拡大に熱心に取り組んできました。平成13年に清和地区の酪農家の女性とともにはじめた「父の日に牛乳を贈ろう」では、当時の蘇陽町長や警察署長などに牛乳を贈る運動を展開。それが全国に拡大し、小泉純一郎首相（当時）に直接渡すなど、熊本の酪農を大きくPRしました。

さらに、2011年、県内酪農家女性とNPO法人「スローライフミルクネット」を設立。やよいさんたちが開発した、家庭でできるチーズ製法を広く普及させようと、チーズづくり教室などの活動を県内各地で行っています。

「このチーズを作るにはノンホモ・バスチャライズ牛乳が必要。私たちは“ホームチーズミルク”と呼んでいる。NPOでの活動は、このチーズの製法を広めて日本の食卓に新しい牛乳文化を起こそうとやっています。」

夫の晋祐さん、息子さん・娘さんとともに酪農を営むやよいさん。現在、牧場内に、チーズやアイスクリームなどの製造販売と、食事も提供できる乳製品工房「山の未来（みるく）舎」を建設、春のオープンに向け準備を行っています。

「この地域に適した我が家なりの酪農を確立したい。そして、牛乳の恵みを消費者はもちろん酪農家にも知ってもらいたい。忙しすぎる酪農家にこそ自ら牛乳を楽しんでほしいですね。」やよいさんの熱い思いで、近い将来、日本の牛乳に“ホームチーズミルク”という新しい分野が開拓されるかもしれません。



牛乳を使った料理コンクールで優秀賞

長野 麗さん(菅尾)



らくのうマザーズと県酪農女性部協議会が主催する「牛乳を使った料理コンクール」が2月2日、阿蘇ミルク牧場（西原村）で開催され、長野麗さんが酪農家部門で優秀賞を受賞しました。長野さんの入賞は同大会3回目。今回の長野さんの料理は、ミルクがたっぷり入ったわらび餅を県内産の柿、イチゴ、キウイのソースで食べる『くまもと彩り3種のフルーツソースで』。麗さんは「牛乳をたくさん使って、しかも、だれでも簡単に作れるようにと考えました。」と料理のポイントを教えてくださいました。

優秀教員として、文部科学大臣表彰を受賞

甲斐 英子さん(畑)

優れた成果を上げた教員を表彰し、資質能力の向上を図ることを目的に行われている文部科学大臣優秀教員の表彰。平成24年度、全国で828人の教職員が受賞。昨年3月まで馬見原小学校に勤務されていた甲斐英子さん（養護職員。現在は益城中学校勤務）が受賞されました。甲斐さんは、昨年度、県の教育功労表彰も受賞されました。



益城中学校に勤務中の甲斐さん（左）

島木の茶飲ん場 オープン

閉所した島木へき地保育所施設を活用

高齢者の見守りネットワークの拠点として「島木の茶飲ん場」がオープン。昨年閉所した島木へき地保育所の跡地を利用し、地域の高齢者が集う場所ができました。

初めての開催日となった2月17日には、44人が訪れ、健康体操や紙芝居、おいしい昼食。そして、たのしいおしゃべりを楽しみました。この日訪れていた松原喬さんは「仲間と集える貴重な場所ですね」と語り、岩田都さんは「楽しいです。来月も来ます」と嬉しそうに話してくれました。

「島木の茶飲ん場」は会員制。年会費200円で現在73人が登録しています。月2回（第1・第3日曜日）、午前10時から午後4時まで。利用料は1回500円です。開設に当たって県認知症サポーター活動活性化事業補助金を受けています。

「茶飲ん場」はボランティアスタッフ16人で運営されています。代表を務める荒木五十男さん。「たたみやこたつ毛布など、役員が持ち寄った物を利用している。テレビや絵なども寄付をいただいている。健康体操や手芸教室など企画して、地域の高齢者のみなさんが楽しんでいただける場所を提供し続けたい。」

子どもの歓声が響いていたへき地保育所跡地に、今度は高齢者の楽しい笑い声が響くようになりました。



お茶の時間。思い出話で盛り上がります。



スタッフのみなさん

「村のあゆみ」完成 上川井野地区の記念誌

上川井野地区の歴史をまとめた記念誌「村のあゆみ」が発行されました。これは、上川井野記念誌発行委員会が、地区内に残る膨大な資料をまとめたものです。

明治33年から1年も欠けることなく残る「初会議」の記録をはじめ、地区に残る農具や民具、伝統行事や地区の祭り、さらに戦没者、屋号まで詳しく掲載されています。表紙の題字は、当時、地区最長老だった木下キヤさん（故人）で、表紙絵は、上川井野出身の日本画家、山下孝治さんが描いた「池尻の唐笠松」です。

発行のきっかけは、戸数の減少により、平成19年3月に行われた「組」の再編でした。「この歴史的な再編を機に、村の歴史をまとめて記念誌を発行しよう」と発行委員会が発足しました。膨大な資料を集めるうちに、掲載したい記事が次々と増えたため、ページ数は95ページのボリュームに。発行までに3年を要しました。

「貴重な資料が多く残っていたので助かった。編集に時間はかかったが、みなさんに協力いただいて完成できた。各戸に配布した際にとても感動してもらったことがうれしかった。」発行委員会代表の平川親義さんは編集の苦労を語ってくれました。

上川井野記念誌発行委員会（敬称略）

山下 佑光	山下喜志男	山戸 久生
木下 昌置	平川 勉	山下 浩一
山下 龍彦	平川 親義	



記念誌「村のあゆみ」と平川親義さん